

97.11.18. 朝日新聞

学校に任せる時間大幅増

教育課程審「総合学習」を新設 中間まとめ

二〇〇三年度に実施され

る完全学校週五日制の教育内容を話し合ってきた教育課程審議会（文相の諮問機関、三浦朱門会長）は十七

■ 中学校の選択教科と総合(仮称)の週当たり時数
〔現行→改訂案、カッコ内は年間時数、
現行の選択教科は外国語を除く〕

	1年	2年	3年
選択教科	0~1→0~0.9 (0~30)	0~3→1.4~2.4 (50~85)	1~5→3~4.7 (105~165)
総合(仮称)	- →2~2.9 (70~100)	- →2~3 (70~105)	- →2~3.7 (70~130)
選択教科と総合の合計	0~1→2.9 (100)	0~3→4.4 (155)	1~5→6.7 (235)

日、審議結果を「中間まとめ」として公表した。全国横並びの内容を改め、学校ごとに特色を打ち出せるようにしたのが最大の特徴。教育課程の大枠では①土曜日分の二単位時間を削減②教科横断的な「総合的な学習の時間」を新設③中学の選択授業を増やす④小中学校で教えるのは基礎的内容に限り、全員が分かるまで教える——などが骨子だ。

（29面に関係記事）
同審議会は、中央教育審議会の「ゆとりの中で生きる力をはぐくむ」を基体にする。児童生徒が自ら学び、自ら考える力の育成に重点を置いた。

具体的な表れが、小学校三年以上に週当たり二単位時間以上設けられる「総合的な学習の時間」（仮称は「総合」）。国際理解・外国語会話、情報、環境、福祉の四分野を例示した。体験的な学習、課題解決型の学習を重視し、試験の成績による評価はしない。小学校の外国語（英語）教育は、この時間や特別活動の中で実施される。
選択授業として中学の必修教科に上乗せできる上限は一教科当たり二単位時間に増やされる。戦後初めて必修となる外国語（英語）だと、二、三年で五単位時間まで可能になる。
高校では、数学史的な話題などを扱う「数学基礎」、科学史などを学ばせる「理科基礎」を新設。職業教科として「福祉」と「情報」も新しく設けられる。